提案主題 学校と地域をつなぐ教頭の役割
 サブテーマ ~総合的な学習の時間における組織的な取組を通して~
 協議の柱 学校と地域をつなぐために、教頭としての役割はいかにあればよいか。

提言者 日田市立小野小学校 後藤元司

1 質 疑

- (1) Q 発信計画の支援の中で、教頭としてどのようにかかわったか。
 A 学習のまとめを学級内だけの発表で終わっていたので、全校集会や学校行事、地域のお祭りで発信するよう助言した。
- (2) Q 異動で初めて赴任した地域で、どのように取組んできたか。
 A 以前からいる職員や引き継ぎされた地域人材の方への聞き取り、自治会長へのアンケート調査を行い、人材についての情報収集を行った。

2 協 議

- (1) 地域人材や教材・素材の発掘
 ○地域にはコーディネーター役をする人がいるので、その人を見つけることが第一である。教頭はその人とつながり、地域の様々な情報を集めることが大事である。
- (2) 校内組織の整備と充実
 ○職員の役割や担当を明らかにし、組織的に取組むよう指導・助言することは、校内組織の整備と充実に向けた重要な役割である。
- (3) 関係機関等との連携
 ○公民館や社会教育課等の人材バンクの活用や防災教育を地域機関と共催で開催するなどの取組みも有効である。
- (4) 引き継ぎの在り方
 ○人材・教材・素材、児童生徒の学び等を記録し、データ化して確実に引き継ぐことは児童生徒の学びの継続につながるので、システム化に向けた取組みが重要である。

3 指導助言

- 校内組織の整備、地域との連携による人材や教材の掘り起こしを中心とした「全体計画」の見直し、生徒・教職員の「データ」を記録として残す取り組みへの着手は大きな成果である。
- プロジェクトチームのメンバー以外も巻き込んで、計画・実行・評価・改善のサイクルを繰り返していくことで、プロジェクトへの参画意識が生まれ、ミドルダウンとボトムアップが円滑に循環していくと考える。
- 「総合的な学習の時間」の「ふるさと学習」を、「アクティブラーニング」を取り入れた「学び」手法へと転換を図ってほしい。